

在宅療養者の看護ケアや看取りに関する「家庭看護」の授業評価

大 津 美 香^{*. **}

Evaluation of "Home Nursing" lessons focusing on nursing care and
end-of-life care for home care patients

Haruka OTSU^{*. **}

Key words : 家庭看護 Home Nursing
授業評価 Evaluation of Lessons
看護ケア Nursing Care
看取り End-of-Life Care

I. はじめに

「家庭看護」は高等学校（家庭科）の免許法施行規則に定める科目区分としては、「保育学」の中に含まれ、乳幼児の健康管理に関する内容が教授されてきた。平成 20（2008）年高等学校学習指導要領改訂（家庭編）¹⁾以降、超高齢社会に伴い高齢者の健康管理や介護に関する知識・技術等の習得が重要視されるようになってきた。しかし、「家庭看護」の開講の仕方は様々あり、「保育学」などの授業の中に家庭看護を含む場合には、全 15 回中の 1 回の授業に留まる等、少ない授業時間の中で「家庭看護」の内容を十分に網羅することが難しいとされている²⁾。A 大学では、2 単位 15 回の授業時間数が確保され、高等学校学習指導要領を遵守したうえで、小児期から老年期の人々を対象とした看護や救急処置を含んで家族が病気になったときの看護など、学生は幅広く学習できる機会がある。その一方では、国立国会図書館の蔵書検索において、「家庭看護」に関する教科書は 1990 年代以降の内容³⁾の更新はないうえ、絶版となった。このような経緯から、担当教員が独自に「家庭看護」の授業内容を検討し、教授し

ている現況であった。

在宅医療が推進されているわが国においては、医療機関以外の場所における死亡が微増する傾向にあり⁴⁾、在宅療養者の看護ケアに加えて、在宅での看取りについても学習する機会が必要であると考えた。本研究では、高等学校学習指導要領を遵守した「家庭看護」において、在宅療養者の看護ケアや看取りに焦点を当てた授業を計画及び実施し、履修学生が教員を目指すうえで役立つと認識する授業となることを目指すこととした。授業の評価と今後の課題を明らかにすることによって、授業の質改善を目指すという点において意義あるものとする。そこで、本研究では在宅療養者の看護ケアや看取りに焦点を当てた「家庭看護」の授業を計画及び実施し、授業評価と今後の課題を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象者

A 大学において健康栄養学を専攻し、高等学校教諭の普通免許状（家庭）の取得のため「家庭看護」を履修する 1 年次学生 27 名であった。

2. 授業内容及び目標

授業の概要及び目標は表 1～6 の通りである。

* 東北女子大学

** 弘前大学大学院保健学研究科

全15回のうち、在宅療養者の看護ケアや看取りに焦点を当てた授業は第10～15回までの6回であった。教材は「家庭看護学（第3版）³⁾」に加えて、看護学を専攻する学生に使用されている看護ケアや看取りに関するテキストを用いて配布資

料やパワーポイントのスライドを作成した。また、ケアに関する技術の実際については、配布資料やパワーポイントによる説明に加えて、理解が容易となるようVTRを教材として用いた。

表1 第10回の授業概要及び目標

第10回「看取り」
1. 死に場所の現状
2. 在宅で看取りを可能にする条件
3. 死をめぐる倫理的課題
4. ターミナル／終末期にある人の身体的特徴
5. 末期がん患者にみられる症状
6. ターミナル／終末期にある人の心理・社会・霊的特徴
7. ターミナル／終末期にある人のケア ①倦怠感
8. ターミナル／終末期にある人のケア ②痛み
9. ターミナル／終末期のケア ①終末期前期
10. ターミナル／終末期のケア ②終末期中期
11. ターミナル／終末期のケア ③終末期後期
12. VTR「終末期のケア」
【目標】ターミナル／終末期にある人々の特徴とケアについて、理解できる。

表2 第11回の授業概要及び目標

第11回「家庭看護の基本技術 日常のケア 1：療養環境づくり」
1. 環境づくり：病室の選び方と整え方
2. 環境づくり：病床・ベッドの作り方・選び方
3. 体位の保持：体位変換・移動、良肢位、安楽な体位
4. 体温の意義と測り方
5. 脈拍の意義と測り方
6. 呼吸の意義と測り方
7. 氷枕・氷嚢の作り方・使い方
8. 保温のとり方
9. VTR「ねまき・シーツ交換、体の移動」
【目標】病人の療養環境と看護について、理解できる。

表3 第12回の授業概要及び目標

第12回「家庭看護の基本技術 日常のケア 2：清潔ケア、食事の援助」
1. 口の清掃
2. 義歯の手入れ
3. 入浴援助時の注意点
4. 清拭
5. 陰部洗浄
6. 洗髪
7. 排泄の世話
8. 食事の世話
9. 自助具の使用
10. VTR「口の中の清潔、洗髪、排泄、介護服」
【目標】在宅療養に必要なケアについて、理解できる。

表4 第13回の授業概要及び目標

第13回「家族が病気になったときの看護：症状別の看護ケア1」
1. 発熱と看護
2. 咳嗽・喀痰と看護
3. 吐気・嘔吐と看護
4. 下痢と看護
5. 薬の正しい使い方
6. VTR「吸引」
【目標】症状とそれらへの対処法について、理解できる。

表5 第14回の授業概要及び目標

第14回「家族が病気になったときの看護：症状別の看護ケア2」

1. ガス中毒・酸素欠乏の手当て
2. やけどの手当て
3. 熱中症の手当て
4. 凍傷の手当て
5. 体に異物が入った時の手当て ①目の異物
6. 体に異物が入った時の手当て ②鼻の異物
7. 体に異物が入った時の手当て ③耳の異物
8. 体に異物が入った時の手当て ①のどの異物
9. ハイムリック法
10. 背部叩打法
11. のどの異物の除去
12. 毒物・薬物を飲んだ・食べた時の手当て
13. 吐血の手当て
14. 下血の手当て
15. VTR「事故やけがの応急手当て」
頭・胸・手足・目のけが、やけど、ガス中毒、熱射病

【目標】症状とそれらへの対処法について、理解できる。

表6 第15回の授業概要及び目標

第15回「家族が病気になったときの看護：家庭での救急処置、事故と救急手当て」

1. すり傷・切り傷の手当て
2. 止血法：①直接圧迫法
3. 止血法：②間接圧迫法
4. 鼻血の手当て
5. 刺し傷の手当て
6. 犬・猫にかまれた場合の手当て
7. 蛇にかまれた場合の手当て
8. 蜂に刺された時の手当て
9. 打撲の手当て
10. 捻挫・脱臼の手当て
11. 骨折の手当て
12. アキレス腱断裂の手当て
13. 指や手足の切断時の手当て
14. 救命処置：気道確保、人工呼吸、胸部圧迫の方法
15. AED（自動体外式除細動器）の使い方と注意点
16. VTR「命を助ける救急手当て、急病のときの救急手当て」

【目標】ケガなどの応急処置・手当てについて、理解できる。

3. 調査方法・内容

各授業の終了後に自記式質問紙調査を実施した。各授業において扱う看護に対する興味・関心の程度、授業評価として各授業内容の理解度と高等学校の教員（家庭）になるうえでどの程度有用性を感じるか、項目を設定した。興味・関心の程度は「1全くない」～「5とてもある」、授業内容の理解度と有用性は「1全く理解できなかった／全く役に立たない」～「5とても理解できた／とても役に立つ」の5段階のリッカート尺度を設定した。「あまり／全く理解できなかった」「あまり／全く役に立たない」の場合には、理由を明らかにするため、自由記載欄を設定した。また、第1回の授業前及び第15回の授業後には、授業で学びたいこと、授業を受けて役に立ったと思う内容について、自由記載による回答を依頼した。

4. 分析方法

リッカート尺度による回答は平均値及び中央値を算出した。また、理解度と有用性については、回答の正規性の有無を確認後、IBM SPSS version 25を用いて、Spearmanの相関係数を算出した（有意水準5%）。自由記載については類似性のある内容をまとめ分類した。

5. 倫理的配慮

本研究の目的、方法、個人情報の保護、研究参加の任意性、参加の可否により成績に影響する等の不利益が生じないこと等について口頭及び文書を用いて説明を行い、自由意思の下、無記名の調査を実施した。質問紙の回収をもって同意が得られたこととした。所属大学の倫理委員会から承認を得ている（承認番号：2018015）。

Ⅲ. 結果

1. 第10回授業内容の理解度と有用性

配布数は26部、回収数及び有効回答数は25部（96.2%）であった。理解度と有用性の授業評価結果を表7に示す。1～12の授業内容について、理解度及び有用性は全ての対象者から4以上

表7 第10回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-12の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. 死に場所の現状	4.68 ± 0.48	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.758**
2. 在宅で看取りを可能にする条件	4.68 ± 0.48	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.668**
3. 死をめぐる倫理的課題	4.64 ± 0.49	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.597**
4. ターミナル／終末期にある人の身体的特徴	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
5. 末期がん患者にみられる症状	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
6. ターミナル／終末期にある人の心理・社会・霊的特徴	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
7. ターミナル／終末期にある人のケア ①倦怠感	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
8. ターミナル／終末期にある人のケア ②痛み	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
9. ターミナル／終末期のケア ①終末期前期	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
10. ターミナル／終末期のケア ②終末期中期	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
11. ターミナル／終末期のケア ③終末期後期	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**
12. VTR「終末期のケア」	4.72 ± 0.46	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.749**

n=25

**p<0.01

の評価が得られた。全ての授業内容の理解度と有用性には中等度から高い正の相関がみられた ($p<0.01$)。看取りの興味関心の平均値は 3.76 ± 1.20 であった。

2. 第11回授業内容の理解度と有用性

配布数は26部、回収数及び有効回答数は25部 (96.2%) であった。理解度と有用性の授業評価結果を表8に示す。1～9の授業内容について、理解度は全ての対象者から4以上の評価が得られ

た。一方、有用性は1名が3, 4の授業内容について3の評価であった。また、1名は3～9の授業内容について3の評価であった。その他の23名は有用性について4以上の評価であった。全ての授業内容の理解度と有用性には中等度から高い正の相関がみられた ($p<0.01$)。家庭看護の基本技術に関する興味関心の平均値は 3.56 ± 1.19 であった。3, 4と3～9の授業内容について3の評価であった2名については、家庭看護の基本技術に関する興味関心の回答は2であった。

表8 第11回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-9の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. 環境づくり：病室の選び方と整え方	4.64 ± 0.49	5.00	4.60 ± 0.56	5.00	0.763**
2. 環境づくり：病床・ベッドのつくり方・選び方	4.64 ± 0.49	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.680**
3. 体位の保持：体位変換・移動、良肢位、安楽な体位	4.68 ± 0.48	5.00	4.60 ± 0.65	5.00	0.761**
4. 体温の意義と測り方	4.68 ± 0.48	5.00	4.60 ± 0.64	5.00	0.761**
5. 脈拍の意義と測り方	4.68 ± 0.48	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.758**
6. 呼吸の意義と測り方	4.68 ± 0.48	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.758**
7. 氷枕・氷嚢のつくり方・使い方	4.68 ± 0.48	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.758**
8. 保温のとり方	4.68 ± 0.48	5.00	4.64 ± 0.57	5.00	0.758**
9. VTR「ねまき・シーツ交換、体の移動」	4.60 ± 0.50	5.00	4.68 ± 0.56	5.00	0.535**

**p<0.01, *p<0.05

3. 第12回授業内容の理解度と有用性

配布数は26部、回収数及び有効回答数は24部(92.3%)であった。理解度と有用性の授業評価結果を表9に示す。1～10の授業内容について、理解度は全ての対象者から4以上の評価が得られた。一方、有用性については、1名のみ1～8の授業内容について3の評価があり、他23名から

は4以上の評価が得られた。全ての授業内容の理解度と有用性には高い正の相関がみられた($p<0.01$)。家庭看護の基本技術に関する興味関心の平均値は 3.71 ± 1.23 であった。1～8の授業内容について3の評価であった1名では、家庭看護の基本技術に関する興味関心の回答は2であった。

表9 第12回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-10の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. 口の清掃	3.71 ± 1.23	4.00	4.67 ± 0.48	5.00	0.991**
2. 義歯の手入れ	4.58 ± 0.72	5.00	4.71 ± 0.55	5.00	0.812**
3. 入浴援助時の注意点	4.67 ± 0.48	5.00	4.71 ± 0.55	5.00	0.716**
4. 清拭	4.67 ± 0.48	5.00	4.67 ± 0.57	5.00	0.716**
5. 陰部洗浄	4.67 ± 0.48	5.00	4.67 ± 0.57	5.00	0.716**
6. 洗髪	4.67 ± 0.48	5.00	4.71 ± 0.46	5.00	0.713**
7. 排泄の世話	4.67 ± 0.48	5.00	4.67 ± 0.57	5.00	0.716**
8. 食事の世話	4.67 ± 0.48	5.00	4.71 ± 0.55	5.00	0.812**
9. 自助具の使用	4.67 ± 0.48	5.00	4.75 ± 0.44	5.00	0.816**
10. VTR「口の中の清潔、洗髪、排泄、介護服」	4.67 ± 0.48	5.00	4.67 ± 0.57	5.00	0.716**

n=24

**p<0.01

4. 第13回授業内容の理解度と有用性

配布数は25部、回収数及び有効回答数は25部(100%)であった。理解度と有用性の授業評価結果を表10に示す。1～6の授業内容について、理解度及び有用性は2名を除いて、全ての対象者から4以上の評価が得られた。2名のうち、1名は6の授業内容の理解度と有用性が3の評価であ

り、家庭看護の基本技術に関する興味関心は4の評価であった。もう1名については、理解度は全て5の評価であったが、1～6の全ての授業内容について、有用性は3の評価であった。全ての授業内容の理解度と有用性には中等度の正の相関がみられた($p<0.01$, $p<0.05$)。家庭看護の基本技術に関する興味関心の平均値は 3.68 ± 1.28 であった。

表 10 第 13 回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-6 の理解度 と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. 発熱と看護	4.68 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.52	5.00	0.478*
2. 咳嗽・喀痰と看護	4.68 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.52	5.00	0.478*
3. 吐気・嘔吐と看護	4.68 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.52	5.00	0.478*
4. 下痢と看護	4.68 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.52	5.00	0.478*
5. 薬の正しい使い方	4.76 ± 0.43	5.00	4.80 ± 0.50	5.00	0.489*
6. VTR「吸引」	4.60 ± 0.58	5.00	4.68 ± 0.63	5.00	0.556**

**p<0.01, *p<0.05

5. 第 14 回授業内容の理解度と有用性

配布数は 22 部、回収数及び有効回答数は 21 部 (95.5%) であった。理解度と有用性の授業評価結果を表 11 に示す。1～15 の授業内容について、理解度及び有用性は全ての対象者から 4 以上の評

価が得られた。全ての授業内容の理解度と有用性には中等度から高い正の相関がみられた(p<0.01)。応急処置に関する興味関心の平均値は 4.10 ± 1.14 であった。

表 11 第 14 回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-15 の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. ガス中毒・酸素欠乏の手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
2. やけどの手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
3. 熱中症の手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
4. 凍傷の手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
5. 体に異物が入った時の手当て ①目の異物	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
6. 体に異物が入った時の手当て ②鼻の異物	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
7. 体に異物が入った時の手当て ③耳の異物	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
8. 体に異物が入った時の手当て ①のどの異物	4.71 ± 0.46	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.645**
9. ハイムリック法	4.67 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.44	5.00	0.791**
10. 背部叩打法	4.67 ± 0.48	5.00	4.76 ± 0.44	5.00	0.791**
11. のどの異物の除去	4.71 ± 0.46	5.00	4.81 ± 0.40	5.00	0.767**
12. 毒物・薬物を飲んだ・食べたときの 手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.81 ± 0.40	5.00	0.767**
13. 吐血の手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.81 ± 0.40	5.00	0.767**
14. 下血の手当て	4.71 ± 0.46	5.00	4.81 ± 0.40	5.00	0.767**
15. VTR「事故やけがの応急手当て」	4.76 ± 0.44	5.00	4.86 ± 0.36	5.00	0.730**

**p<0.01

6. 第 15 回授業内容の理解度と有用性

配布数は 25 部、回収数及び有効回答数は 23 部 (92.0%) であった。理解度と有用性の授業評価結果を表 12 に示す。1～16 の授業内容について、理解度及び有用性は全ての対象者から 4 以上の評

価が得られた。全ての授業内容の理解度と有用性には中等度の正の相関がみられた (p<0.01)。応急処置に関する興味関心の平均値は 4.04 ± 1.19 であった。

表 12 第 15 回授業内容の理解度と有用性

授業内容	理解度		有用性		1-16 の理解度と有用性
	平均値 標準偏差	中央値	平均値 標準偏差	中央値	Spearman 相関係数
1. すり傷・切り傷の手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.87 ± 0.34	5.00	0.530**
2. 止血法：①直接圧迫法	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
3. 止血法：②間接圧迫法	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
4. 鼻血の手当て	4.70 ± 0.47	5.00	4.87 ± 0.34	5.00	0.586**
5. 刺し傷の手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
6. 犬・猫にかまれた場合の手当て	4.70 ± 0.47	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.694**
7. 蛇にかまれた場合の手当て	4.70 ± 0.47	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.694**
8. 蜂に刺されたときの手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
9. 打撲の手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
10. 捻挫・脱臼の手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
11. 骨折の手当て	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
12. アキレス腱断裂の手当て	4.70 ± 0.47	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.694**
13. 指や手足の切断時の手当て	4.70 ± 0.47	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.694**
14. 救命処置：気道確保、人工呼吸、胸部圧迫の方法	4.65 ± 0.49	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.628**
15. AED（自動体外式除細動器）の使い方と注意点	4.61 ± 0.50	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.572**
16. VTR「命を助ける救急手当て、急病のときの救急手当て」	4.70 ± 0.47	5.00	4.83 ± 0.39	5.00	0.694**

**p<0.01

7. 学生の興味と理解度及び有用性の関連

第 10～15 回の授業において各看護の興味関心について相関分析を行った (Spearman 相関係数)

結果、第 10,11,12,15 回の授業について、看護に対する興味関心と授業内容の理解度及び有用性において、有意な相関関係がみられた (表 13,14)。

表 13 看取りと看護ケアに対する興味関心と授業内容の理解度及び有用性の関連

授業内容の理解度と有用性	興味関心	
	看取り	看護ケア
第 10 回「看取り」の授業評価		
理解度		
3. 死をめぐる倫理的課題	0.467*	—
第 11 回「家庭看護の基本技術 日常のケア 1：療養環境づくりの授業評価		
理解度		
9. VTR「ねまき・シーツ交換、体の移動」	—	0.486*
有用性		
1. 環境づくり：病室の選び方と整え方	—	0.462*
第 12 回「家庭看護の基本技術 日常のケア 2：清潔ケア、食事の援助」の授業評価		
理解度		
1. 口の清掃	—	0.409*
2. 義歯の手入れ	—	0.410*
3. 入浴援助時の注意点	—	0.410*
4. 清拭	—	0.410*
5. 陰部洗浄	—	0.410*
6. 洗髪	—	0.410*
7. 排泄の世話	—	0.410*
8. 食事の世話	—	0.410*
9. 自助具の使用	—	0.410*
10. VTR「口の中の清潔、洗髪、排泄、介護服」	—	0.410*
有用性		
1. 口の清掃	—	0.449*
2. 義歯の手入れ	—	0.449*
3. 入浴援助時の注意点	—	0.545*
4. 清拭	—	0.545*
5. 陰部洗浄	—	0.545**
6. 洗髪	—	0.537**
7. 排泄の世話	—	0.545**
8. 食事の世話	—	0.449*
9. 自助具の使用	—	0.439*
10. VTR「口の中の清潔、洗髪、排泄、介護服」	—	0.545**

**p<0.01, *p<0.05

表 14 応急処置に対する興味関心と授業内容の理解度及び有用性の関連

授業内容の理解度と有用性	応急処置の興味関心
第 15 回「家族が病気になったときの看護：家庭での救急処置、事故と救急手当て」の授業評価	
理解度	
1. すり傷・切り傷の手当て	0.475*
2. 止血法：①直接圧迫法	0.566**
3. 止血法：②間接圧迫法	0.566**
4. 鼻血の手当て	0.445*
5. 刺し傷の手当て	0.445*
6. 犬・猫にかまれた場合の手当て	0.445*
7. 蛇にかまれた場合の手当て	0.445*
8. 蜂に刺されたときの手当て	0.566**
9. 打撲の手当て	0.566**
10. 捻挫・脱臼の手当て	0.566**
11. 骨折の手当て	0.445*
12. アキレス腱断裂の手当て	0.445*
13. 指や手足の切断時の手当て	0.445*
14. 救命処置：気道確保、人工呼吸、胸部圧迫の方法	0.475*
16. VTR「命を助ける救急手当て、急病のときの救急手当て」	0.445*
有用性	
1. すり傷・切り傷の手当て	0.530**
2. 止血法：①直接圧迫法	0.628**
3. 止血法：②間接圧迫法	0.628**
4. 鼻血の手当て	0.586**
5. 刺し傷の手当て	0.628**
6. 犬・猫にかまれた場合の手当て	0.694**
7. 蛇にかまれた場合の手当て	0.694**
8. 蜂に刺されたときの手当て	0.628**
9. 打撲の手当て	0.628**
10. 捻挫・脱臼の手当て	0.628**
11. 骨折の手当て	0.628**
12. アキレス腱断裂の手当て	0.694**
13. 指や手足の切断時の手当て	0.694**
14. 救命処置：気道確保、人工呼吸、胸部圧迫の方法	0.628**
15. AED（自動体外式除細動器）の使い方と注意点	0.572**
16. VTR「命を助ける救急手当て、急病のときの救急手当て」	0.694**

**p<0.01, *p<0.05

8. 授業前の学びたいこと、授業を受けて役に立ったと思う内容

授業前の学びたいことの記述内容を表 15 に、授業を受けて役に立ったと思う内容を表 16 に示す。授業前では記述の多かった内容には「将来の

家庭・生活や仕事に役立つこと」「看護の全般的な内容」「母子に関する看護」があった。授業後に役に立ったと思う内容は「病気やケガ、緊急時の対応」が最も多かった。

表 15 授業前の学びたいこと

分類	授業で学びたいことの記載内容
将来の家庭・生活や仕事に役立つこと	将来の仕事や生活に役立つような知識を身につけたい 将来、家庭をもったときに役立つこと これからの生活で生かせることのできる看護の知識を身につけたい 家庭を持った時に役立つようなこといろいろと学んで知識として知っておきたい
看護の全般的な内容	将来関わるかもしれないため、一定のことを学びたい 看護とは何か、定義、対処法など 看護はどのようなことをするのか学びたい 自分がいつ看護にかかわるか分からないため、そのようなことを考えて学びたい
母子に関する看護	子ども、妊娠、出産、育児のことを詳しく知りたい 子どものケアを学びたい 妊娠、出産、育児についてとても興味があり、将来、役立つと思うため、学びたい 高齢者や障がい者のことは学んだことがあるため、初めて聞く母性看護に興味がある
ケースや対象による看護	年代ごとの看護について どのようなケースでどのように対応すべきか詳しく学びたい
高齢者の看護	高齢者の看護について知識を身につけ、将来、親や祖父母の役に立ちたい 高齢者の看護についてとても興味があり、将来、役立つと思うため、学びたい
管理栄養士にとって役立つ内容	管理栄養士を目指しているため、栄養や食事と関係のあることを学びたい 病院で他の医療スタッフと管理栄養士として働きたいため、将来に役立つような高齢者の看護を特に学びたい
他者の世話や援助方法に関する知識	身近な人が困った時にすぐ手を差し伸べられるように知識を深めたい どのように世話をすれば相手が心地よくなるのかを学びたい
医療における食事に関する内容	ケアや病院で提供されている食事を知りたい 医療関係の話から食事の大切さを聞きたい
ケガや病気の対処法	家で誰かがケガや病気になったときの簡単な対処法を学びたい 家族が病気やケガをした時の看病の仕方を知りたい
自分自身や周囲などの実生活に役立つ知識	自分自身や周りの人に役立つような知識を学びたい 同年代の人たち以外の健康や置かれている状況などを知り、実生活に役立てたい
健康のためにできること	看護師ではない自分が健康のためにできることを学びたい
認知症	認知症について学びたい
看護用品	看護がしやすくなる使用物品を紹介してほしい
思いつかない	思いつかない

表 16 授業を受けて役に立ったと思う内容

分類	役立つ授業内容についての記載内容
病気やケガ、緊急時の対応	<p>家族の介護や道端で倒れている人がいたら、学んだことを実際に生かしていきたい</p> <p>家庭や学校で緊急のときに対応できるようにしていきたい</p> <p>ケガや事故の対応等、日常生活の中で使う場面が多いと思うので、しっかりと復習し役立てるようにしたい</p> <p>日常生活で何か起こったときのために役立てたい</p> <p>いつ何が起こるか分からないため、プリントやテキストを見ていざ実施できるようにしたい</p> <p>今後誰かに危険が迫ったときに実践できるくらいに知識を深めたい</p> <p>応急処置など活用していきたい</p> <p>日常のもしものときに備えて活用していきたい</p> <p>自分の身に起こったときに即座に対応できるようにしていきたい</p> <p>病院で働く際にも何かあったときの応急処置に役立てたい</p>
習ったこと全般	<p>いつ自分に看護する日が来るかわからないので、習った内容を覚えておきたい</p> <p>自分がその場に立ったら役立つと思うので、しっかり覚えておきたい</p> <p>家庭看護の新しい知識を学べた</p> <p>習った知識を無駄にしないようにしたい</p> <p>自分や身近な人を将来助けるために必要な知識が得られた</p> <p>様々な場面で使えるので、活用していきたい</p>
家族の面倒や介護	<p>家族の面倒は見られるようにしたい</p> <p>家族の介護に学んだことを実際に生かしていきたい</p> <p>介護は関わる可能性が高く、学んだことを踏まえ、早い段階から家庭内で話し合ってみたい</p> <p>親や子どもの看護に役立てたい</p>
病人や高齢者の対応	<p>職場や家庭で授業で習ったことを踏まえて、特に病人や高齢者の対応をしていきたい</p> <p>介護は今後絶対に役に立つことなので、授業で学んだことは将来に役立てたい</p> <p>教員として働く際には授業内容を活用し、介護・看護について日常での役立つよう生徒に教えたい</p> <p>症状のある当事者が一番つらいと思うため、責めたりせずに接していきたい</p>
日頃の生活	<p>日常生活に活かせることは多いと思った</p> <p>日頃の生活に生かしたい</p>
栄養士としての相手への寄り添い方	<p>栄養士を目指すうえでも、相手の気持ちに寄り添う方法を活かしていきたい</p>

IV. 考察

1. 授業評価

在宅療養者の看護ケアや看取りに焦点を当てた第10～15回までの授業内容は、ほとんどの内容について理解度は4以上の評価が得られた。また、自由記載欄では授業内容に対する苦情は皆無であった。よって、受講者にとって理解しやすい

授業内容であったと考えた。いずれの授業内容についても、理解力が高いと有用性の認識も高かった。また、第13回のVTR「吸引」については、1名が理解度及び有用性をともに、3「どちらともいえない」と回答していた。このことから、理解可能な授業内容とすることで、将来役立つと思う認識も高められると考えられた。

2. 今後の課題

第11回の授業では日常のケアに関する家庭看護の基本技術を扱っており、2名については理解度が4以上「理解できた／まあ理解できた」であったが、有用性は3「どちらともいえない」と回答していた。それらの内容は、体位の保持、体温・脈拍・呼吸の意義と測り方、氷枕・氷嚢の作り方・使い方、保温のとり方、VTRねまき・シーツ交換、体の移動であった。第14回及び第15回の家族が病気になったときの看護に関する授業では、興味関心は4.10、4.04であったが、日常のケアに関する第11回及び第12回の授業では3.56、3.71とそれらよりも低かった。第11回の授業では有用性を3と回答した2名において、家庭看護の基本技術に関する興味関心の回答は2「あまり興味関心がない」と回答していた。第12回の授業内容では、口腔の清掃、義歯の手入れ、入浴援助時の注意点、清拭、陰部洗浄、洗髪、排泄・食事の世話について、理解度は全員が4以上であったが、有用性では3と評価した者がいた。その回答者は、家庭看護の基本技術に関する興味関心の回答は2と評価していた。これらのことから、全体的には有用性を感じてはいるものの、高齢者等の日常生活機能が低下した人々を援助するための日常のケアについては興味関心が低く、救急処置を含む家族が病気になったときの看護に興味関心を持っていることが明らかになった。「ケガや病気の対処法」については、授業前からのニーズがみられ、授業後に役立ったと思う内容についても、「病気やケガ、緊急時の対応」が最も多かった。一部の受講者では、日常のケアについて興味関心が低い者が有用性を感じる程度も低かった。高齢者の健康管理や介護に焦点を当てた「家庭看護」の授業評価結果においても、寝たきりや長期療養者の看護に関する興味関心の程度は、3.71、3.76と

高いものではなかった⁵⁾。本研究においても、日常のケアは高齢者等、生活機能が低下した人に用いられ、青年期にある受講者にとっては身近なものと感じられず、興味関心が低かったことが推察された。20歳代前後の女子大学生では子宮がん検診の検診受診率は低く、子宮頸がんの重大性については理解している一方、自分とは無縁の疾患であると考えていたと報告されている⁶⁾。怪我や病気の対処などの内容のほうが経験をして身近に遭遇する可能性があると認識していたことから、興味関心が高かったことが考えられた。看護ケアの意義や重要性の教授だけでは不十分であり、日常のケアについても、身近なものと感じさせ、興味関心を引き出す授業となるよう検討していく必要がある。

V. 引用文献

- 1) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説家庭編，2010。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/07/29/1282000_10_1.pdf
- 2) 叶内茜，倉持清美，伊藤葉子，吉川はる奈，鎌野育代：家庭科教育養成における「家庭看護」学習教材の効果。日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集，60(0)，97，2017。
- 3) 松下和子，花沢和枝，紅林みつ子，平野かよ子：家庭看護学第3版，医歯薬出版株式会社，1996。
- 4) 厚生労働省：【テーマ1】看取り 参考資料。
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000156003.pdf>
- 5) 大津美香，多喜代健吾，北宮千秋：高齢者の健康管理や介護に焦点を当てた「家庭看護」の授業評価。保健科学研究，10(1)：59-67，2019。
- 6) 田中千春，国府浩子：若年者の子宮頸がん検診に関する知識と思い。日本がん看護学会誌，26(2)，35-44，2012。